

総務課長
認 印



第17回（定例）沖縄県教育委員会

1 日 時 平成19年11月21日 15時37分～17時00分

2 場 所 教育庁第一会議室

3 出席者

委員	中山委員（委員長） 伊元委員 玉城委員 東委員 比嘉委員 仲村委員（教育長）	（欠席委員）
	統括監等	教育管理統括監、参事
	課長及び 班長等	総務課長 財務課長 施設課長 福利課長 県立学校教育課長 義務教育課長 保健体育課長 生涯学習振興課生涯学習推進監 文化課長 全国高校総体推進課長
庁	職務のため 出席した者	（事務局） 総務課総務班班長 総務班主任
4 傍聴した者 記者2人		

委員長	<p>それでは、只今から平成19年第17回定例県教育委員会会議を開催します。</p> <p>始めに、会期の決定を行います。本日1日を予定しておりますが、よろしいでしょうか。</p>
各委員	異議なし。
委員長	<p>この通り決定します。</p> <p>次に前回会議録の承認を行います。伊元委員お願いします。</p>
伊元委員	はい。正確に記載されております。
委員長	正確に記載されているということですが、承認してよろしいでしょうか。
各委員	異議なし。
委員長	<p>承認します。</p> <p>今回会議録署名人は、東委員にお願いします。</p>
東委員	はい。
委員長	次に教育長報告をお願いします。
教育長	(教育長報告を行う。)
委員長	それでは、ご質疑等ありましたらどうぞ。
東委員	<p>質問というより意見だが、今回の全国学力テスト結果には非常に憂慮している。基礎学力は、将来その人が精神的又は経済的に豊かになる基盤の一つであると思う。将来の職業の選択肢にも関わる問題だ。点数が悪い他の県は全国平均より差が小さい中で、本県は全国平均より5.0ポイント以上の差がある。この状況では、脱最下位プロジェクトのような具体的なアクションプランを組まないといけない。県市町村の教育行政、学校現場、PTA等の社会全体で一緒になって、まず脱最下位を目指すことが必要ではないか。テストのための勉強になってはいけないという論調もあるが、それは平均点近い者がいうことで、本県は最下位でしかも平均よりかなりの差がある状況だ。教育論議を交わす場合ではない。実際にこうした状況におかれている子どもたちがかわいそうだ。まずは最下位を脱出することが教育行政に課せられた使命で、目標を一つに持ってみんなで進んでいくことが大事だと思う。</p>

比嘉委員	<p>夢や目標を持っている生徒の割合は全国平均より高いので、次はその夢や目標に近づくにはどうしたらいいのかということだ。小学校、中学校、高校、大学などの各段階で、それぞれの目標を設定し達成することで、自分の夢や目標をかなえていくやり方を身につけていく必要がある。そこを、先生方、地域、保護者が一緒になって取り組んでいくべきことだと思う。それと、一番結果のよかった秋田県がどのような取り組みをしているかというのは、既に調べていると思うが、私もたまたまテレビの番組でそれを拝見した。秋田県では、本県の達成度テストのようなものを毎月やっており、それをデータ化して個人別、クラス別、学校別に何が弱いのかという結果がすぐにわかり対策が取れるようになっている。しかも各先生がそれをすぐ実践している。その他、子どもたちの学力向上に意欲のある先生方がチームを組んで、研究を続けながら各学校をまわって指示するということをやっている。こういうことなどは、本県でもすぐに取り組むことができるのではないか。また、もう一つは、秋田の場合は沖縄と違って、交通の問題等でなかなか塾にも通えない状況があるが、先生方が家庭学習をかなり細かく、コメント付しながら、励ましながら指導しているという取り組みもしていた。これなども沖縄でもできるのでは。今後の取り組みにおいては、すぐにできること、何年かかけてやることを整理して段階的に着実な対策と仕組みを作る必要がある。</p> <p>それから、今回の学力テストの県内離島の状況はどうか。</p>
教育長	<p>顕著な差は出ていません。データとしてはきちんと出ておりますが、これは公表はしないことになっています。</p>
玉城委員	<p>今回の学力テストの結果を待ち遠しく思っていた。昭和63年度から本県が独自に取り組んできた達成度テストがあって、平成10年度頃からその成果が確かに出てきたという声も聞いていたからだ。この20年間の成果が、全国的にはどのレベルにあるのかという期待があった。結果はまさかの最下位で、がっかりした。達成度テストの反省が必要だと思う。以前に琉大附属松島中学校に勤めていたときに、当時の校長から、教師の授業づくりが子どもの意欲を引き出し、学力向上につながると強く言われていた。学力テストの結果を受け、教員一人一人がどれだけ授業に真剣に取り組んでいるのかと考えた。それから、沖縄の子どもたちにプライドと夢を持ってほしいと思っているが、今回の結果でプライドを持ってない子どもになっていかないかと危惧している。教職員が模範となって子どもたちに学んでいくことがどんなに楽しいんだということを伝えていくことが大切ではなからうか。</p>
伊元委員	<p>子どもたちの学習意欲だとか、基礎学力だとかについては、学校と家庭の取り組みにつきると思う。脱最下位に向け</p>

	<p>て全県的に取り組んでいかないといけないと思うが、復帰直後から本県の学力は他県に比べて遅れているということで、全県をあげて学力向上に取り組んできた。それで確かに県全体の学力は向上してきているだろうと思う。しかし、今回のこの結果は、まだまだ全国レベルには追いついていないということであり、そのことを認識してどう対策をとるのか考えていかなければいけない。行政としてどう取り組めばいいのかといった場合、子どもたちに実際に教育するのは現場の先生方であるので、彼らをいかに“燃やす”ことができるかが大切であろう。これから検証委員会により学力テストの結果が分析されると思うが、先生方が教材研究に割く時間、子どもたちに実際に関わる時間がどれくらいあるのかを調査し、行政として何ができるか考えるべきだ。実際に学校現場にいた者として、先生方が授業以外の業務も多くあることを知っている。また、学校長は行政主催の研修のみならず、校内でも授業研究・研修をやる体制を持ってもいいのではないかと。</p>
<p>委員長</p>	<p>4人の委員の意見が全て憂慮しているということで、沖縄県の児童生徒に関する最大の問題ではないかと思う。スポーツ面では、ずいぶん他県に追いついている状況がある。スポーツは学校以外のトレーニングが盛んだ。学力に関しても、学校以外の家庭や社会全体の教育に対する熱意によるだろう。復帰後35年がたち、戦争の影響で学力面が弱いといういわけはもう通らないだろうと思う。沖縄県民の資質の問題と言われかねない。学力についても、スポーツのようにやればきちんと力がつくと示さないといけない。この問題は社会全体で取り組まないといけないが、それをリードするのが教育委員会ではないか。今回の学力テストでは、中学校の数学が一番全国平均から差がついている。数学はコツコツと積み重ねが重要な教科だ。沖縄の児童生徒は、コツコツとねばり強く頑張るというところに問題点があるのかなと思う。勉強の方法論を色々考えるのもよいが、やはり勉強はコツコツとやらなければいけない。方法論について議論すると何となく問題が解決したように思えるが、子どもたちがコツコツとやらなければ、方法論は意味をなさない。いずれにしろ、今回の結果については真剣に考えなければならぬ問題であり、それを考える中核は我々教育委員会だと思っている。責任をよそには持って行けない。そのような覚悟を持って取り組んでいかなければいけない。教育行政が中心となって教育委員も真剣に一緒に考えていきたいものだと思っている。</p>
<p>教育長</p>	<p>今回の結果を受け、事実は事実として真摯に受けとめて、今後どうするかという改善策を検討していきます。ただ、20年間の学力向上対策が無であったわけではなく、下位の子どもたちが中位に引き上げられてきたのは対策の成果でありますし、またセンター試験の成績が向上している等の成果もあります。これらの点で、ある程度の評価は必要かと思えます。</p>

	<p>今回の結果を受けて対策を考えると、学校は何をすべきか、そして教育行政は何をすべきか、家庭は何をすべきか、社会は何をすべきかというのを明示をしていきたいと思っております。学校では、授業改善や工夫、つまづきの早期発見、クラス編成を複数年にする等に取り組んでいきたいと考えております。また、行政では、達成度テストが同じことをずっと繰り返してきたという指摘もありますので、応用問題を入れる等が今後の改善になると思っております。また、学力サポーターの派遣や少人数授業等も文科省へ要請しています。家庭においては、家庭学習や早寝早起き朝ごはんをぜひともお願いしたいと考えております。社会的には、本県は失業率、所得、一人親世帯が全国最下位という状況もありますので、社会全体としても学力問題を県民運動とする気運が必要と考えております。まずは全国平均をと思いますので、本日、いろいろとご議論いただきましたので、今後の検討委員会の中にも反映していきたいと思っております。</p>
委員長	<p>教育長、一生懸命やってみましょう。 県立学校編成整備計画の一部見直しについてはご質問ありませんか。</p>
伊元委員	<p>財政面や県民ニーズの問題があつての一部見直しだと思うが、定時制・通信制独立校と那覇中等教育学校に関しては、独立校でなく既存の学校に設置をするという見直しだ。各学校は学校改革ということで色々な取り組みをやっているの、早めの統合先の学校との調整が必要だ。調整がこれからであれば、早めに学校を決めて調整を進めていただきたい。</p>
委員長	<p>編成整備については、本質をたえず見つめてやっていただきたい。 他にございませんか。よろしいですか。 それでは、議事に入ります。 議題は議案が4件となっております。議案第3号及び第4号は人事案件となっておりますので、非公開としたいと思いますが、よろしいでしょうか。</p>
各委員	<p>異議なし。</p>
委員長	<p>この通り決定します。 それでは、議案第1号の説明をお願いします。</p>
財務課長	<p>(議案について説明)</p>
委員長	<p>ご質疑等ございませんでしょうか。 (しばし間があり) 授業料月額を9,600円から9,900円にすることで、様々な財政的な問題が解決するのか。</p>

財務課長	<p>授業の改定がなければ、本年度と比較して次年度は6,000万円の減収となりますが、今回改定することで逆に3,700万円ほどの増収となります。この4、5年生徒数が減少しております。前回の授業料の改定が平成17年でございまして、平成16年度の授業料を100とした場合、平成20年度見込が93程度となります。学校施設については、特にクーラーの設置等の整備をかなり進めております。また、IT関係の整備も進めており、そのような教育事情がある中で授業料の削減はなかなか厳しい状況です。他の財源を削減し、これを県立学校にあてるという状況でもありませんので、今回の値上げを認めていただきたいということでございます。</p>
伊元委員	<p>定時制高校の授業料は、単位あたりの徴収になるのか。</p>
財務課長	<p>そうです。年間20単位として計算しています。</p>
委員長	<p>今回の授業料値上げで、父兄から反対があるか。</p>
財務課長	<p>今回の改定に向けて、関係団体等に説明を重ねてまいりました。子どもたちの教育水準を落とさないためにも値上げが必要であり、一方で経済的に困難がある時には、授業料の減免等で配慮していきたいと申し上げてきました。理解を得られるのではないかなと思っています。</p>
委員長	<p>それでは、よろしいでしょうか。</p>
各委員	<p>はい。</p>
委員長	<p>この通り決定します。 それでは、議案第2号の説明をお願いします。</p>
県立課長	<p>(議案について説明)</p>
委員長	<p>只今の説明についてご質疑等ございませんでしょうか。</p>
伊元委員	<p>今回の条例はいいことだ。これまで外国で専門性を磨きたいといったときには、学校を辞めなければならなかった。今回の条例で身分が保障される。条例を活用し、学んだものは本県の子どもたちにかすことが大切になるが、職場復帰後に最低5年は勤務しなければならないという規定もあるか。</p>
県立課長	<p>今回の条例では、そのような縛りはございません。ただ休業が承認される条件がありまして、在職が2年以上であること、休業しても公務に支障がないこと、そして、公務に関する能力向上に資するの3つです。従って、公務復帰が前提になっています。</p>

玉城委員	休業期間は、退職時には働いていた期間として見なされるのか。
県立課長	原則、加算されませんが、修学等の内容が公務に特に資する等であれば2分の1加算になります。
委員長	他に質疑ございませんか。 それでは、この通り決定してよろしいでしょうか。
各委員	はい。
委員長	それでは、この通り決定します。 休憩します。 (以下は非公開部分なので、省略します)